

4) Publication under JITSUKAI HEISEI 5-48879:

This disclosure will require additionally the provision of a drive control means in a sewing machine for the purpose of circular sewing.

Compared with our application, the attachment to be mounted at the right-hand side of the needle position itself is common with ours, but this attachment is inconvenient to use, because it is not suited for mounting in every type or kind of sewing machine.

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-48879

(43)公開日 平成5年(1993)6月29日

(51)Int.Cl.⁵

D 0 5 B 35/00

識別記号

庁内整理番号

A 7152-3B

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全 3 頁)

(21)出願番号 実願平3-101109

(22)出願日 平成3年(1991)12月9日

(71)出願人 000003399

ジューキ株式会社

東京都調布市国領町8丁目2番地の1

(72)考案者 林 稔

東京都調布市国領町8丁目2番地の1 ジ

ューキ株式会社内

(72)考案者 小川 達矢

東京都調布市国領町8丁目2番地の1 ジ

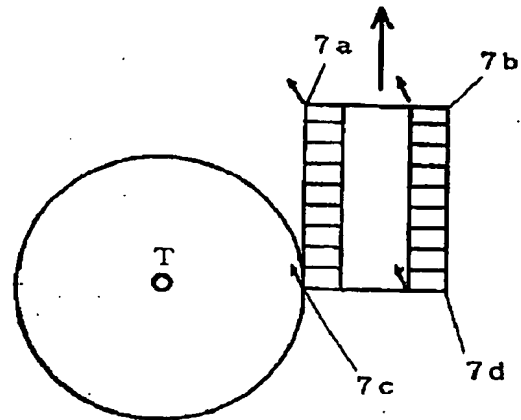
ューキ株式会社内

(54)【考案の名称】 ミシンの縫い装置

(57)【要約】

【目的】 被加工布に円形模様を形成するミシンの縫い装置を提供するものである。

【構成】 送り歯の布送り方向後端に対応する位置に設置した中心アタッチメント15で円の中心となる被加工布を保持し、実行/終了スイッチ19を押すことによって被加工布に円形模様を形成する。このようにすることにより、布にしわをよらずに円形縫いが形成できる。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 模様発生装置に従い針と送り歯との協働により所定模様を形成するミシンの縫い装置において、縫合点よりも布送り方向との交差方向に離隔した位置を円中心とするように被加工布を支持する中心位置決め部材を有し、

送り歯により前記中心位置決め部材を中心に前記被加工布を移動し、前記被加工布に円形模様を形成するミシンであり、

上記中心位置決め部材による円中心を送り歯の布送り方向後端に対応して布送り方向との交差方向に位置するように設定したことを特徴としたミシンの縫い装置。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の1実施例のミシンの縫い装置の一部の斜視図である。

【図2】 本考案の1実施例のミシンの縫い装置の各部を制御するための制御装置のブロック図である。

【図3】 図2の制御装置の動作を説明するフローチャートである。

【図4】 円縫いの状態を示す説明図である。

【図5】 本考案のミシン縫い装置において、縫製される*

2

* 円形模様の最適中心を決めるための送り歯との関係を示す説明図である。

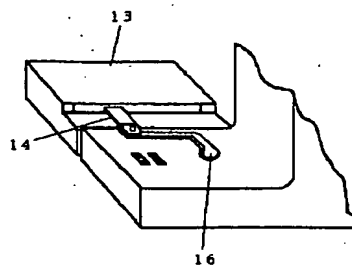
【図6】 本考案のミシン縫い装置において、縫製される円形模様の中心をと送り歯とを説明する説明図である。

【図7】 ミシン縫い装置の斜視図である。

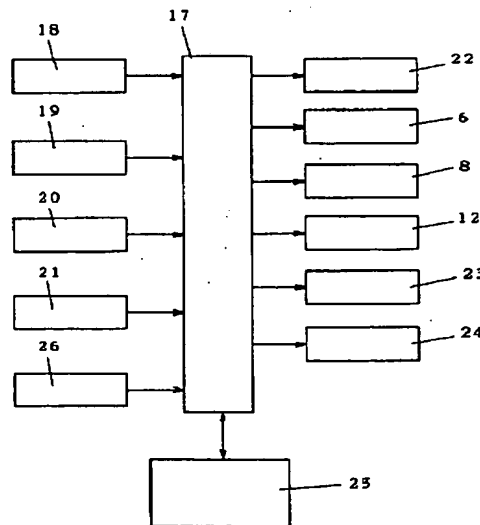
【符号の説明】

1	ミシン
13	刺繍装置
14	支持腕
16	中心アタッチメント
17	CPU（中央処理装置）
18	模様選択スイッチ
19	実行/終了スイッチ
20	回転中心判別スイッチ
21	円弧選択スイッチ
22	主モータ
23	X方向駆動モータ
24	Y方向駆動モータ
25	ROM
26	装着検知スイッチ

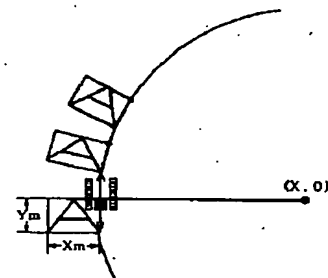
【図1】



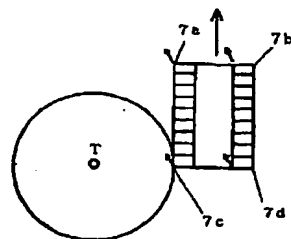
【図2】



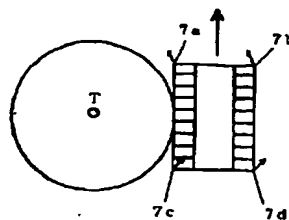
【図4】



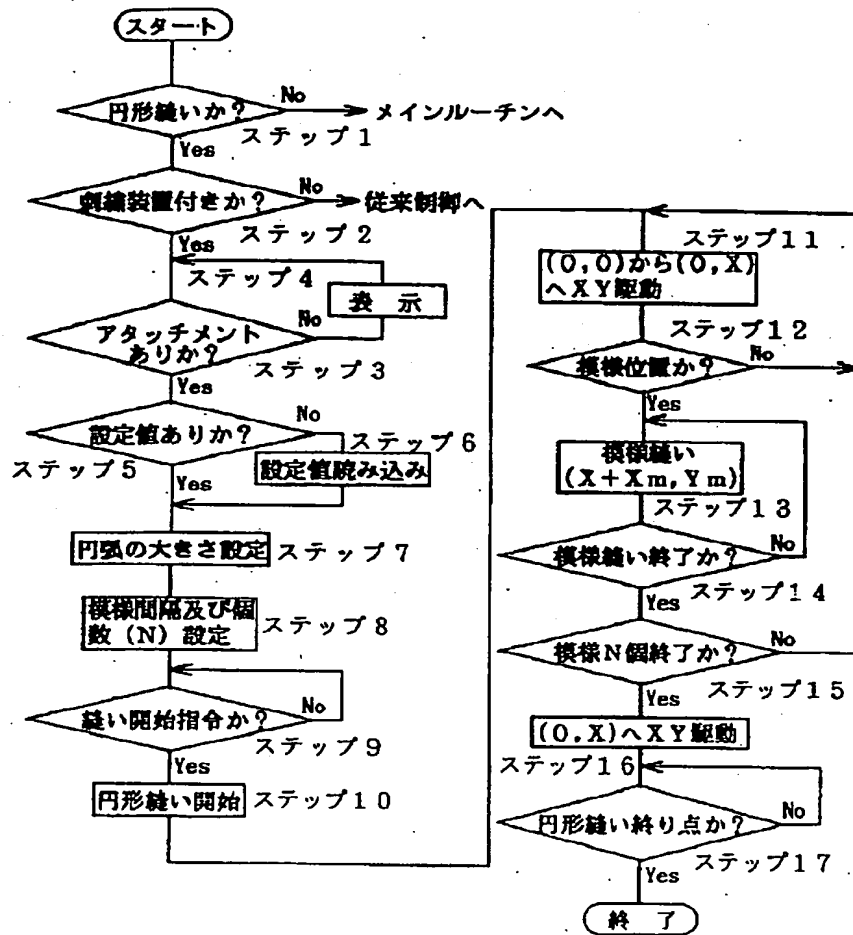
【図5】



【図6】



【図3】



【図7】

